

雁塔本聖教序記

正書  
左行

成乎寶蓋豈與湯武  
怨誠而遂顯豈謂  
偈遂使阿耨達水  
玄資福垂拱而治

# 「落ち穂拾い記」

## 『雁塔聖教序碑・清初拓整本』

③

54

図版③ 「雁塔聖教序記碑」

図版①  
許成琮題簽「雁塔聖教序碑」



乾隆拓本「序碑」

図版②  
趙世駿書「馬遜」墓誌」



C

B

A

清初拓本「記碑」



図版④ 道光四年觀記、未刻拓本



褚遂良の流麗な楷書は、初唐楷書の名品であり、その魅力は尽きることがない。これまでに紹介したような、清朝初期の旧拓本は、数件手にしてきた。1頁に行6字、3行に剪装されたやや小型の折帖は、清末から民国期に活躍した役人であり、書法を善くした許成琮(1882〜1967字は禪養)の旧蔵本であり、先に紹介した高島槐安居蔵本に近い拓調である(図版①)。清末には碑法帖の善本を数多く収蔵し、鑑別等に大変詳しい同時代に張璋(1882〜1968、字は效彬、致園と号す)が跋文を記し、その中で、所蔵者の許成琮の書を「南趙北許」の語を用いて評している。当時の中国における褚遂良の書法を善くして人物として、南方の趙世駿(1860〜1927、字は声伯、山木と号す(図版②))、北方の許成琮の二人を並記し賞賛している。巻頭には、旧蔵者・許成琮の美事な楷書題簽(図版①)が付されている。その他に、清初前の装丁そのままのやや重墨の旧拓剪装本なども得た。とりわけ珍しいのは、清初拓の整拓本である。清初拓の剪装本は、手にしたり見たりする機会はあるが、碑形をそのまま残した整拓の清初拓本は、非常に稀である。20年ほど前に偶然手にした、「雁塔聖教序碑」の後半の「記碑」の軸装本であり、二つの「治」字が未封の状態である。清末の金石家・愛新覺羅 宝熙(1871〜1942、字は瑞臣、沈盦と号す)旧蔵であった(右頁主図版)。近年、この旧整拓本の前半である序碑の乾隆時代の整拓本(20行目末に道光四年の觀記が刻されていない旧拓(図版③④))を薦められ入手し、記碑に合わせて序碑を同じように軸装し、両碑の整拓本を並べて楽しんでいる(図版③)。

〔注〕記碑の後に求めた序碑の整拓本は、乾隆時代の拓である。序碑に見られる数ヶ所の「玄」字は、破損はないが、11行目の「無對」の「對」字の「寸」部の縦画が太く改刻されて、清初拓の条件に合致していない。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)



**公益社団法人全日本書道連盟  
理事会開催**

5月16日(木)、上野精養軒にて全日本書道連盟の理事会が開催されました。

**議事**

1. 書写・書道教育推進協議会ならびに日本ユネスコ登録推進協議会の活動状況について
  2. 令和5年度助けあい募金の報告
  3. 今理事会ならびに令和6年度総会(6月6日)での審議事項について
- 議決事項**
- ・令和5年度事業報告ならびに決算の承認
  - ・会費規定の改正について
4. 令和6年度総会の進行について
  5. 令和6年度書写書道教育講演会について(総会の終了後)
- 演題** 「筆順の変遷からみる書写書道教育」
- 講師** 松本仁志氏 広島大学・教授・教育学博士、全国大学書写書道教育学会理事長
6. 令和6年度夏期書道大学講座について(8月2～4日開催)

**講師**

8月2日

〈楷書〉 堀 吉光先生

〈かな〉 齊藤 紫光先生

8月3日

〈篆刻〉 真鍋 井蛙先生

8月4日

〈行書・草書〉 山口 啓山先生

〈漢字かな交じり書〉 西村 大輔先生

7. 後援規定の改正について

**令和6年度公益財団法人定例理事会  
令和5年度事業報告・決算など**

3月の今年度事業計画・予算案などの審議に続き、5月18日事務所にて令和5年度事業報告・決算などの審議をいたしました。

当日午前中に院監事による監査が行われ、青木法律会計事務所所長青木丈様、瀬川幸人様、院幹部(理事長、常務理事2名) 同席にて滞りなく行われました。

午後2時から財団理事19名にて理事会が開催されました。

**○議事・審議事項・報告事項**

- ・令和5年度事業報告及び決算承認
- ・定時評議員会の招集
- ・第78回書道芸術院展関係人事(参与会員、常任総務、総務への昇格人事、審査会員への昇格、復帰・退会・ご逝去)
- ・第78回書道芸術院展と第76回全国

学生書道展各部長の選任など。  
令和6年度秋季展選考委員、書道芸術院前衛書展、第78回書道芸術院展一般無鑑査審査員数、代表理事、業務執行理事の職務の進行状況などについて。  
詳細は次号の院報にてご確認ください。

**一般財団法人毎日書道会  
理事総務会開催**

**第75回毎日書道展出品状況** 2024.5.23現在

|       | 漢I   | 漢II   | かI   | かII  | 近詩   | 大字   | 篆刻  | 刻字  | 前衛   | 計     |
|-------|------|-------|------|------|------|------|-----|-----|------|-------|
| 公募    | 2729 | 4369  | 1010 | 1158 | 3792 | 1332 | 186 | 494 | 781  | 15851 |
| 会友    | 1387 | 937   | 216  | 660  | 1357 | 390  | 66  | 42  | 264  | 5319  |
| U23   | 348  | 495   | 83   | 100  | 549  | 185  | 46  | 15  | 41   | 1862  |
| 小計    | 4464 | 5801  | 1309 | 1918 | 5698 | 1907 | 298 | 551 | 1086 | 23032 |
| 75回展計 |      | 10265 |      | 3227 | 5698 | 1907 | 298 | 551 | 1086 | 23032 |
| 74回展  |      | 10525 |      | 3409 | 5815 | 1944 | 365 | 602 | 1137 | 23797 |
|       |      | -260  |      | -182 | -117 | -37  | -67 | -51 | -51  | -765  |
| 院(全)  |      | 357   |      | 233  | 387  | 171  | 0   | 24  | 337  | 1509  |
| 74回展  |      | 374   |      | 248  | 416  | 183  | 0   | 40  | 359  | 1620  |
|       |      | -17   |      | -15  | -29  | -12  | 0   | -16 | -22  | -111  |

5月23日(木)国立新美術館にて毎日書道会の理事総務会が開催されました。24日から始まる公募鑑別のため、各部

門一部委員は既に作業に就いていました。  
**議事**

1. 総務交代の件
2. 令和5年度一般社団法人毎日書道会の決算の件
3. 第75回毎日書道展、同展記念事業の件
4. 「2025新春展」の件
5. 「毎日書道チャリティー募金」の件
6. 「第33回国際高校生選抜書展」の件
7. 毎日書道図書館閉架式への変更について
8. 特別改革委員会の件

毎日書道会が運営する毎日書道図書館は、4月末で閉館し、来年1月に閉架式の前約制図書館として再オープンします。同図書館は、毎日展60周年を記念して2009年に開館しましたが、財政面から現方式での運営が困難になったそうです。図書は毎日書道会が保有するスペースに移して管理し、再オープン後は予約に基づき毎日書道会の事務所で閲覧する形になるそうです。

毎年出品点数の減少が続く毎日書道展の状況を鑑みて将来を展望するための特別改革委員会が6月よりスタートします。

- 委員長** 室井玄聳先生  
**副委員長** 徳増信哉専務理事  
**委員** 薄田東仙・山中翠谷先生・(書壇側) 下谷他11名

## 漢字書基礎基本講座 (1)

種谷萬城

### 漢字書の学び方1

新春展に、『夕刻、雪も降りそうだし、一杯如何(能飲一杯無)』を書きました。新春に、こんな言葉が交わせる平和な日常への回復を願い、白楽天の詩を選文し、強い願いを東周金文の線に込め表現した作品です。書を書くことは、文字に心を加えることで、心を動かして書くことが大切です。どんな言葉を選ぶのか、また、どんな書きぶりで書き、どんな思いを伝えるのか、それが重要です。

さて、書の創造とは、単なる新しさの追求ではなく、伝統的な漢字とかなの美の追求の上に立つ調和と技法の研究の上によるものです。書は、文字を素材とする造形芸術ですから、文字に対する研究の深さが、作品の根幹を左右します。中国・日本の書の名跡・名品である『書の古典』には、金石、簡牘、拓本、肉筆等があり多種多様です。また、書体は甲骨文、金文、小篆、隸書、楷書、行書、草書、かな等で様々です。そして同じ書体でも書風(趣)が様々です。この多種多様の書の古典に関心を持ち、研究を深めることが書の学びです。これは大変奥の深い世界です。



白楽天詩「問劉十九」(白居易)

1388×622cm

## 基礎基本講座

## 篆刻・刻字基礎基本講座 (1)

後藤大峰

今回より、標記の講座をすすめて参りたいと存じます。よろしくお願ひいたします。初めは、篆刻について、お話を行っていききたいと存じます。

篆刻は古来、字法、章法、刀法の三法が重要とされてきました。最初に、これらについて、話して参りたいと思います。

初めに「字法」について進めて参ります。

篆刻は、文字通り「篆書」を刻すので「篆刻」と言われます。そして、篆書は、歴史順に甲骨文からスタートして、印篆に至るまで何種類かに分類されます。今、ここで、主に篆刻作品に使われている書体を示してみます。(この掲載文字は、古典を基に筆者が創作、揮毫したものです。今回は「山」をテーマにしました。)

写真は上から、「甲骨」「金文」「小篆」「印篆」です。他に、何種類かに分類されますが、主に、これらを使用致します。

一つの印面には、一種類で構成を致します。各書体を混合して作品を創作することはありません。



# 書道芸術院 令和の群像 (2024)



牧川逢扇

## 「出会い」

私が初めて書と出会ったのは、小学1年生、近所の書道教室に通ったのが始まりです。以来、現在まで育児で筆を持つ時間があまりなかった時期もありましたが、今日まで続けてまいりました。

様々な出会いの中で、師との出会い、大字書との出会いは大切な宝物です。社会人になり小伏竹村先生・小扇先生の

教室に通い始めました。当初は「書道芸術」誌へ競書出品をしておりました。

それから、1年余りが過ぎた頃、竹扇会の毎日書道展練成会に参加いたしました。

それが、大字書との出会いです。

大きな画仙紙に大きな筆、時には激しくまた静かにと、躍動感あふれる動きから、描き出される文字、すっかり魅了されました。

練成会ではグループに分かれて書き込んでいきます。先輩の書く姿を見様見真似で初めて書いた作品は「艇」でした。墨を含



第58回竹扇会書展「蹄」

牧川逢扇書

んだ筆の重さに驚き、思うように動かない体のもどかしさ、それでも何かワクワクするような楽しさを感じました。以来、今日まで大字書の魅力に取りつかれております。年月を重ねる度に楽しさ難しさとともに感じることはやはり、臨書の重要性です。

私が大字書を書くとき考えることはまず、文字選びです。季節や日常の中から連想される文字を選ぶことが多いです。それから、紙の大きさを決め、墨色は濃・淡どちらを選ぶかを決めていきます。

文字の書体・構成は主に古典の法帖を参考にいたします。草稿を作り、何度も試作した後、書き始めます。書き進めて行き、行き詰まった時は再び法帖を見て考えます。

淡墨の場合、墨色が重要です。紙との相性もあります。同じように磨った墨でも使用する時の天候、温度、湿度等により墨色、にじみも違ってきます。

それだけに、きれいなにじみ、美しい墨色が出せた時は気分も高揚し、紙面に向かえます。

写真の「蹄」は全紙を使用し、墨は手持ちの中から墨色の異なるものを混ぜ合わせて使用いたしました。

草原を馬がゆったり穏やかに走り始め、やがて力強く疾走する姿を思い浮かべて書きました。少しでも雰囲気が出せたでしょうか？

竹村先生、小扇先生を始め、たくさんの方々と出会い、導いていただき、書道を続けてまいりました。さらに研鑽を重ね、精進していきたいと思います。

# 書道芸術院 令和の群像 (2024)



藤井龍仙

## 「書作のおもしろさ」

高校1年の春。芸術科選択科目を何にするのかを決める際に、労なく単位を取れる授業はどれかと考えた結果が、書道であり、書との苦闘はこの時に始まりました。

高校の授業で出会った書道科の故・竹本龍汀先生のアカハラ級の勧誘で書道部入部。直後の夏休みに、3泊4日の書道部の合宿で、書けない悔しさ、書くおもしろさに覚醒してしまい、その時の思いは、今も変わらず書作の際に味わっています。

そんな書道との出会いは、大学受験科目の成績を下げつつ、書道準備室に入り浸りの高校生生活へと誘ってくれたのです。



第77回書道芸術院展「従軍北征」

藤井龍仙書

大学進学にあたっては、好きな書道と、やってみたい建築工学の二択で迷っていた時に「書写検定の1級を受けてみる」と師に言われ、1級は無理だろうと思いつつ、受験したところ高校生にして合格してしまい、これで書道の先生にはいつでもなれるという勘違いも手伝って、進学先は地元の工学部入学となりました。

44歳で書道専業になるまでは書を趣味とする傍ら、会社勤務の合間に書道教室を持つこともできました。

しかし、勤務先が倒産し、再就職もできず、厳しいと承知しつつも書道教室専業に転身し現在に至っています。

数年前に師が身罷るまでの年月の中で、今も頭から離れない師のことばに「展覧会の作品は、貶さず何が評価されたのかを見

抜け」「行き詰まったら臨書」「作品は1週間吊るせ」「書風を固めるな」があります。ほかにも多々ありますが、書き切れないので印象深いことばを書きました。師からの学んだことで、後世に伝えたいのは、臨書に取り組む姿勢と活用法です。古典臨書をするということは、作品創作の技術と品格を学び取る行程であり、創作に生かすための素材に過ぎません。臨書した作品は習作の域を出ませんので、作品として発表するものではありません。

臨書する中で習得した書く技術を創作の中でどう生かしたのか、原帖の品格が作品に漂っているかが臨書の本質であり、ただ臨書をして、原帖とそっくりに書けるようになったとしても、その先にあるはずの創作に活かさないのではただの自己満足です。臨書は原帖の風味が肝心要なのです。

とは言え、闇雲に臨書するわけにもいかないで、創作する際に、品が無くなってきたら王羲之、線や字形が単調になったら自分の好きな法帖、書風を変えたいときは自分の苦手な法帖に挑戦しています。

書作品制作のアプローチは人それぞれで、彷徨いながらの作品制作も、書作のおもしろさであり、書作の達成感、作品を認めてもらえたときの喜びも、書作のおもしろさです。書作にゴールはありません。書作をおもしろがるのが大切です。



宇田川春華  
(東京)



「拙是巧之方」

この度は審査会員にご推挙  
頂き有難うございます。  
加瀬澄春先生の温かい御指  
導のもと、書の厳しさや楽し  
さを学んでまいりました。ま  
た良き書友の支えがあり、こ  
れまで継続できましたこと、  
心より感謝申し上げます。  
今後とも継続の力を信じ、努  
力して参ります。(春華)



佐藤祥扇  
(山口)

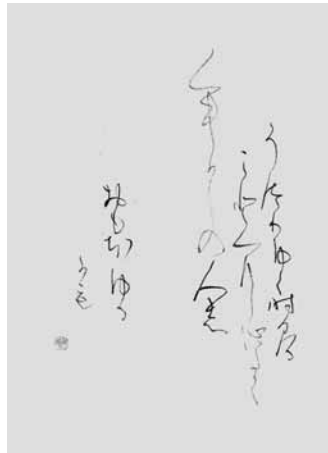


「種田山頭火の句」

詩文選びにはいつも苦勞し  
ています。今回は地元出身の  
種田山頭火の句を軽いタッチ  
で、余白を意識しながら筆を  
運んでみました。  
30数年ご指導くださった諸  
先生方、そしてすばらしい仲  
間に感謝し、楽しみながら、  
これからも書き続けて参りた  
いと思います。(祥扇)



木村関泉  
(千葉)



「うつりゆく」

この度、審査会員にご推挙  
いただき誠にありがとうございます。  
下谷洋子先生の熱心  
なご指導と書泉会の諸先生方  
のお蔭と深く感謝申し上げます。  
今後は気持ちを新たに、  
美しく洗練されたかなが書け  
るよう精進して参りたいと思  
います。(関泉)



徳永溪泉  
(鳥取)



「桃紅柳緑」

この度は審査会員への昇格  
有難うございます。八原先生  
はじめ諸先生方、支えてくだ  
さった皆様に感謝致します。  
よいものを見た時の感動を  
どのように書として表現して  
いくのか。試行錯誤ですが、  
作品としてよりよいものがで  
きるよう、より一層精進して  
参りたいと思います。(溪泉)

書に関する人材育成事業・地方開催講演会

関西総局・講師 辻元大雲先生

「漢字かな交じりの書」現代詩文書の書作法と今」

令和6年4月29日(月) 大阪産業創造館

報告者 稲垣小燕

今回は、公益財団法人書道芸術院より各総局支局で一般の方も参加出来る講演会を企画するようにと依頼を受けました。そこで急遽計画を立て、このたびは毎年4月29日に開かれている玄遠社総会と組み合わせる形で開催いたしました。

関西総局は現代詩文書の分野に研究会、関西書道協会、和泉の会が、漢字・大字書の分野に玄遠社等が所属しています。

講師には公益財団法人書道芸術院顧問の辻元大雲先生にお願いし、演題は「漢字かな交じりの書」現代詩文書の書作法と今」と題してお話いただきました。

現代詩文書の皆様方は日頃から直接御指導を受けておられますが、今回の講演内容からより一層深く理解し受け止められたことと思います。

分野の違う方々には、現代詩文書で表現することの意義等を学び、書作の視野を広げる良い機会となったことと思います。

先生のお話は演題の現代詩文書のことでだけにとどまらず、書全般に通じる

書作に対する姿勢の興味深いお話をし  
て頂き、出席者一同熱心に聞き入って  
いる姿が印象的でした。

講演会終了後茶話会を催し、約1時間  
間質疑応答の場を持ちました。その中  
で著作権についての質問があり、辻元  
先生は作品を用いる時、著者の方にま  
ず許可を頂き、使用させて頂いた後には  
お礼のお手紙をお出しになっておら  
れると伺いました。質問をされた方は  
新たに気が付きましたとお礼を述べて  
いらっしました。

他に言葉の選び方や墨についての質  
問もあり1時間では足りない茶話会に  
なりました。そして出席の皆様方から  
は一刻も早く筆を執りたい気持ちが伝  
わってくる充実した講演会になりました。

辻元先生には心よりお礼申し上げます。

大型連休の中、御予定もおありの  
ころ12名の方々の御出席を頂き、ご協  
力に誌面を借りまして感謝申し上げます。



熱心に聴き入る受講者



ご講演中の辻元先生



質問をされる畑中弄石先生



満員の講習会場

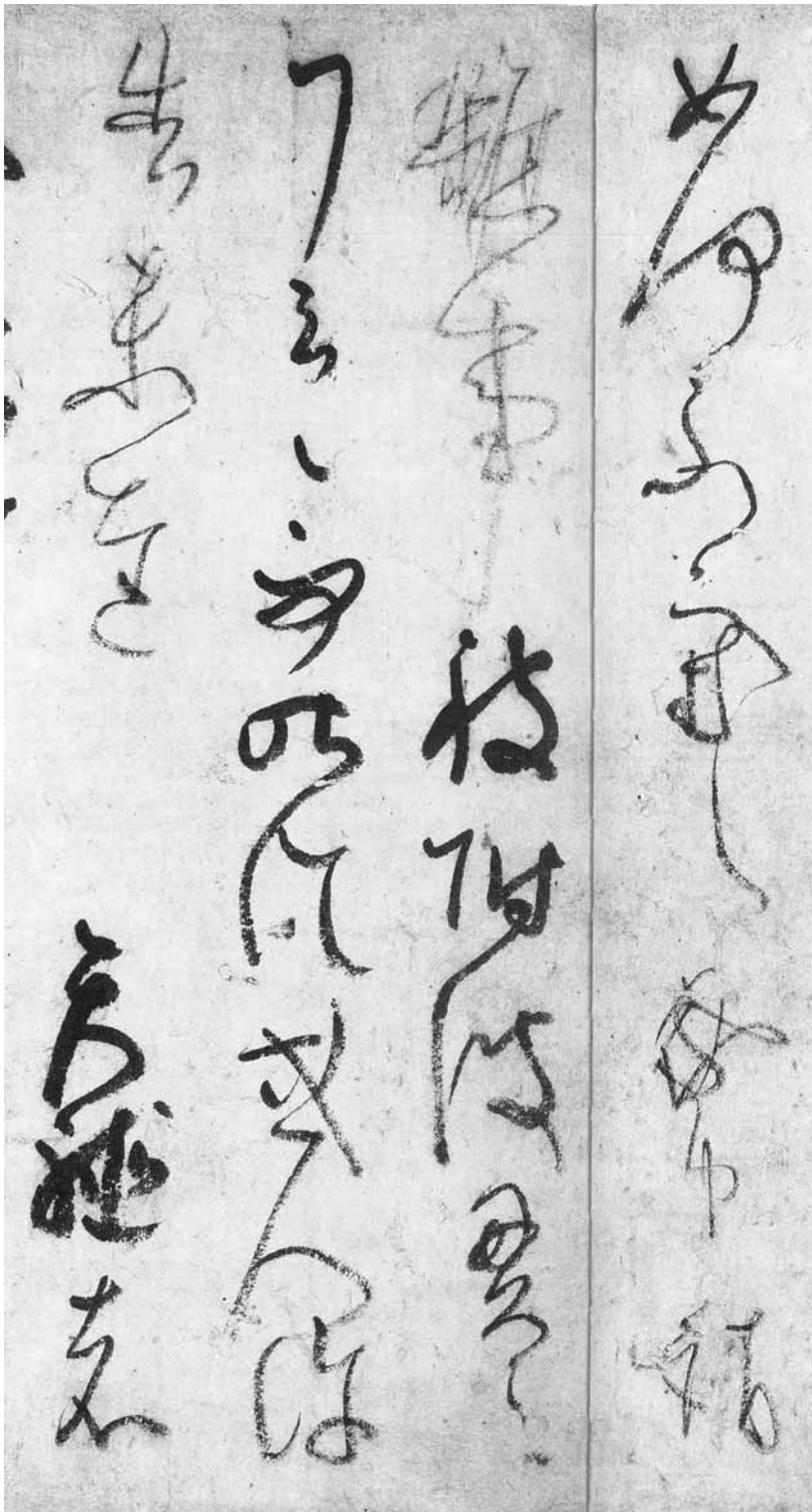


古典鑑賞

469

佐理書状③ (頭弁帖)  
すけまさ さり  
とうべんじょう  
とうのべんじょう

※落款を必ず入れる。署名、もししくは○○臨(押印のみも可)



※掲載図版70%に縮小

〔解説〕前号の解説でふれたように、佐理は大宰大貳として九州地方を直轄する責任者となったが、その在任中に宇佐八幡の神人との間でトラブルを起こし、罷免されてしまった。この「頭弁帖」は京都に帰還してからの書状と考えられ、長徳4年(998)の執筆と推定されている。最晩年55歳の書状である。

内容は、佐理が帝に奏上した事案が滞っているため、頭弁(太政官の弁官で蔵人頭を兼ねた者)実は藤原行成を介して、そのことを嘆き訴えたもの。「離落帖」などに見られたスピード感は影を潜め、かわりに重厚味も感じられる落ち着いた書風となっている。わずかに震えも見られるが、年齢あるいは健康状態が影響したのかもしれない。いづれにせよ、和様の優品であることは疑いようがない。(P52に骨書きを掲載しました。)

(編集部)

如何。不審々々。八佐理申請雑事、被附彼貫主了云々。而昨従或人許告。未達天聰者。

(個人蔵)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の一部-毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) (B. 小品の一部-半切%以上半切以内、全紙%以内も可(A・B縦横自由))

当該古典の上記掲載部分以外も可。

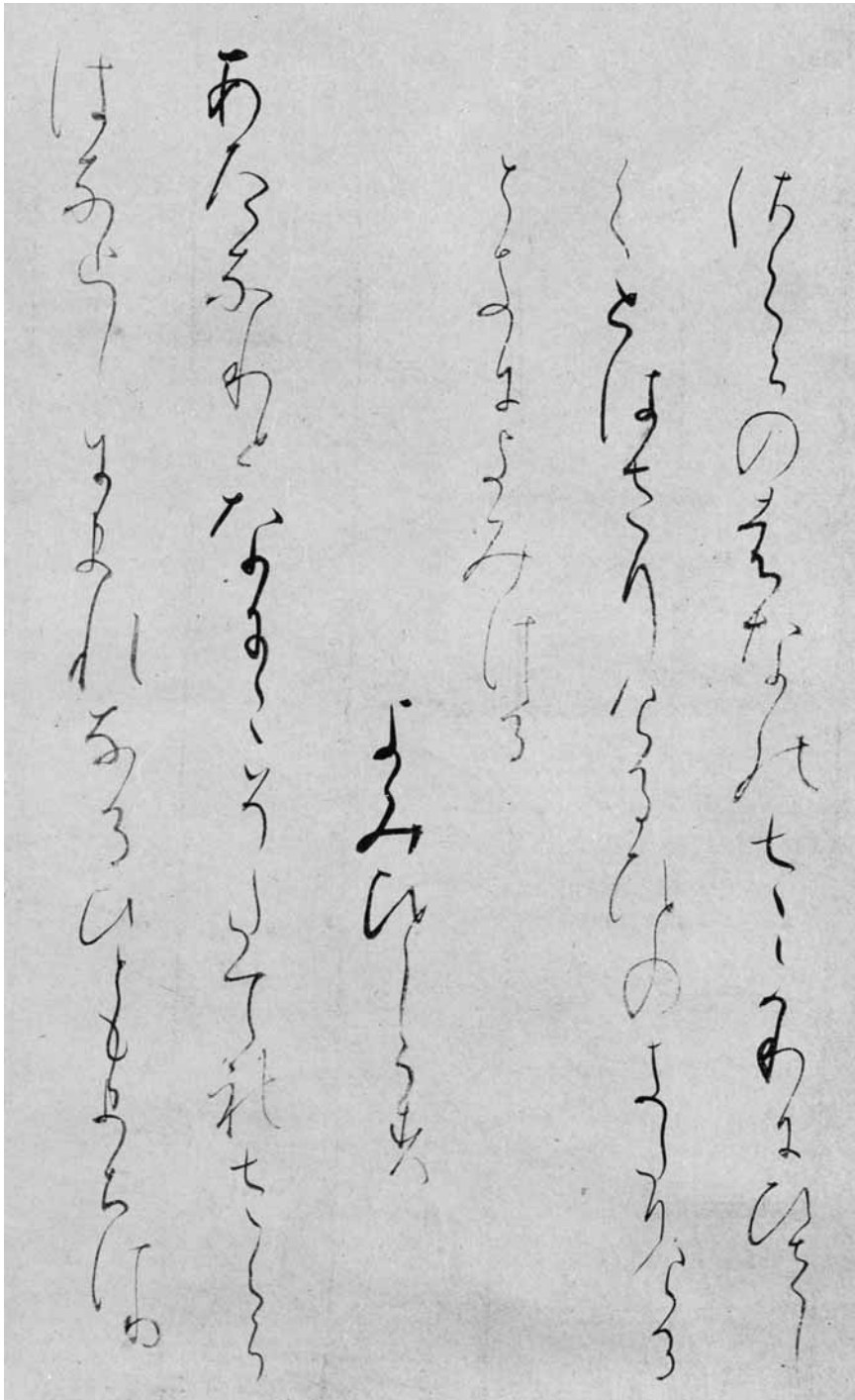
古筆鑑賞

(243)

高野切第一種  
(伝紀貫之筆) ③

〔解説〕「高野切」に関して、安東聖空はその著書の中で、古筆中第一の作と評している。平静そのものの筆蹟でありながら、品位が高く、あわせて威厳さと崇高さを兼ね備えているというのがその理由である。高野切の筆者が人が人間的教養を深く持ち、人格も高邁であったろうという推測もなされている。そして、3種類について、人間の心性をもって説明している。

- ① 第一種は「情」。温容で万人を自らの懐ろに抱き込むような大人の風がある。悠々とした落ち着き
  - ② 第二種は「意」。岩をも貫くような強い意志的な風がある。
  - ③ 第三種は「智」。合理的であり知的な冴えが感得できる。
- ……同朋舎の『かな古筆美の研究・第一巻』を参照しました。  
(編集部)



(個人蔵)

※掲載図版・80%に縮小  
(P53に見やすい図版があります)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用) 別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

- A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
- B. 小品の部=半切 $\frac{1}{4}$ 以上、半切以内(縦横自由)  
<いずれも上記の掲載以外も可。>

〈よみ〉<sup>佐久</sup>さくらはな<sup>者</sup>のさかりに、<sup>能</sup>ひさし<sup>可利</sup>くとはざりけるひとのきたりける<sup>介</sup>とき<sup>文多</sup>によみける<sup>介</sup>よみびと<sup>文</sup>しらず<sup>介</sup>あだなりとなにこそたてれさく<sup>多</sup>ら<sup>利</sup>ば<sup>多</sup>なとしにまれなるひと<sup>多</sup>もまちけり<sup>利</sup>

漢字規定 初段以上 【7月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書



落日青苔

よみ (落日青苔を照らす)

書体 自由

### 習い方解説 (3)

辻元大雲

落日照青苔

(落日青苔を照らす)

(皇甫冉)

夕日に照らされた庭、青々とした苔を照らす、静寂な風情

最後は5字句を選びました。やはり夏の風情を詠んだ静かな庭園の光景です。夕日に照らされた庭の苔の青さが心を落ち着かせてくれるようです。

明清代のリズム感ある連綿の気分を取り入れた行書表現です。王鐸、米芾などを想いながら、筆は玉毛の中鋒筆を使用しています。玉毛は猫の毛で、かな用の小筆などに多く見られます。中鋒位の大きなもの珍しいかもしれません。やや強めの運筆で、筆の弾力を活かした表現です。

半紙という定型での練習は変り映えない平凡な感じもありますが、基礎基本の表現技術の習得には欠かせないものです。「継続は力なり」を旨に普段からの努力を期待します。

※「審査会員の部」に出品する方は、43ページをご確認下さい。

〈編集部〉

雲煙過眼

邑峰書

雲煙過眼

よみ (雲煙過眼)

書体 楷書

習い方解説 (3)

大平 邑峰

雲煙過眼

(雲煙過眼)

(蘇軾)

雲や煙がたちまち過ぎ去ってしまふように、物事を長く心に留めないこと

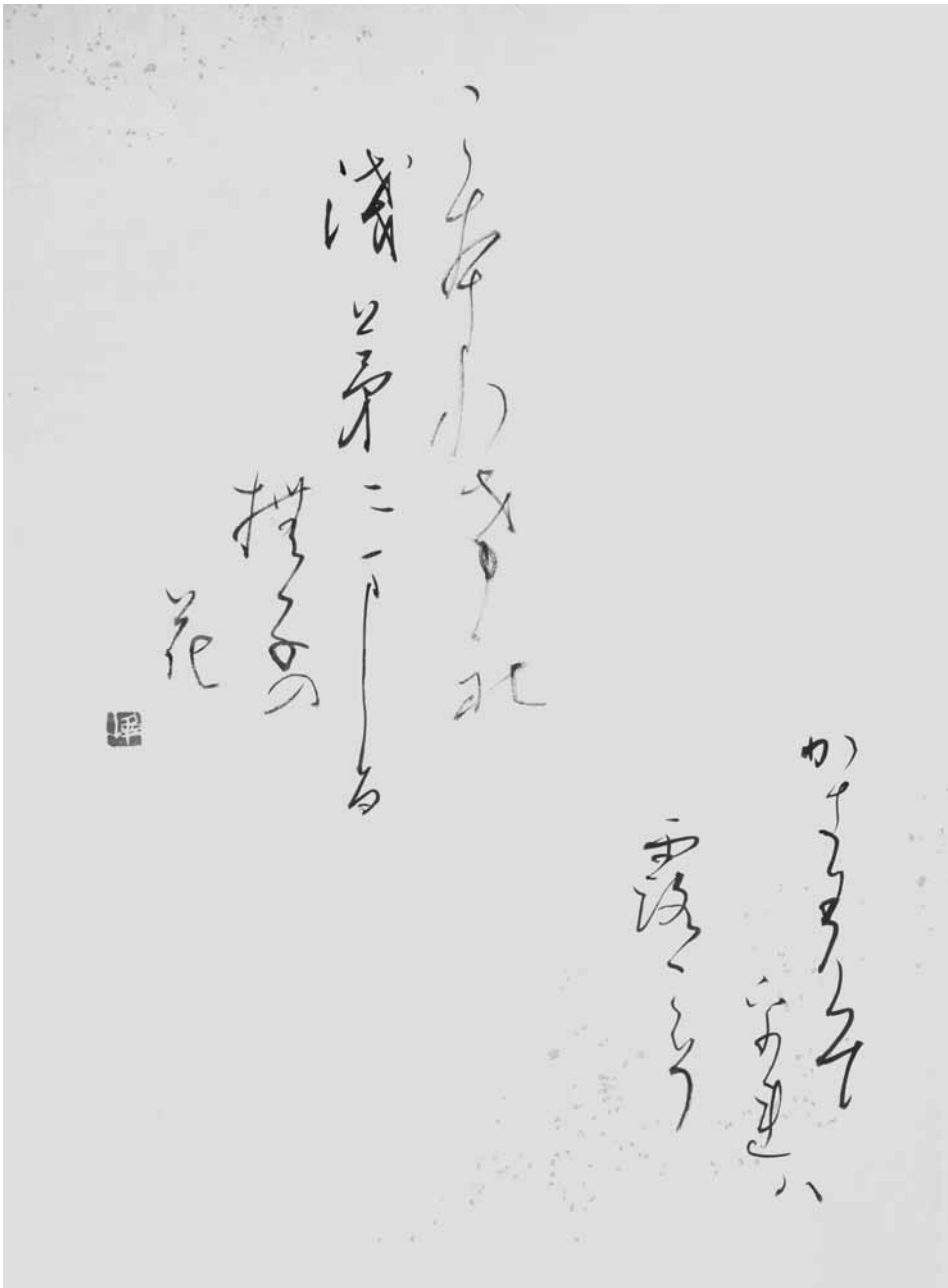
種谷扇舟先生は、「墨」誌(第72号)で「…椿遂良は何から出発しているかといえば、まず王羲之から始まり、歐陽詢、虞世南について勉強し、ついで龍門の碑石を学び、あらゆるものを包含した中から作り上げたのが孟法師碑であり伊闕仏龕碑だと思ふのです。そしてそれを更に洗練させたのが房玄齡碑であり、最後に成し遂げたのが雁塔だと思ひます。…」と書学習の順序について述べられています。

この度の参考手本は、孟法師碑を傍らに置いてその包含されたものは何かと思ひながら書いてみました。中々掴みきれないままの書作となり恥じ入るばかりです。初めて使う厚手の半紙だったので、調子を確かめながら、じっくり墨を入れるつもりで運筆しました。

(兼毫・濃墨使用)

習い方解説 (3)

平川峰子



かき(五分)折(介)て折(平)れ(連)ば(八)露(こそ)曾(こ)ぼ(本)れ(希)れ(礼)  
浅茅にまじる撫子の花

(山家集)

浅茅をかきわけてその中にまじる撫子の花を手折ると露がこぼれ落ちたよ

「撫子」の語源はなでるようになりに大切にあつかう子供、愛する子、愛児。撫子の花が小さくて愛らしい様子からその名前になりました。

空間の美しさ、立体感を出したいと思い、構成を大胆にふたつに分けました。墨の潤濁にも気を付け、墨継ぎは浅でしました。

流れを出すために「本・れ・希・し」を長くしましたが縦に長く書く線は手が震えて書きにくい場合もあります。その時は、本とれ、万としを連綿にしないで制作してみてください。

雅印の位置をあらかじめ念頭に置き、意識的に右に流れるようにしました。墨の濃淡や筆線の太細の組み合わせでリズム感を出すと美しくなります。

よみ方

かき(五分)折(介)て折(平)れ(連)ば(八)露(こそ)曾(こ)ぼ(本)れ(希)れ(礼)  
浅茅に(二)ま(万)じる撫子の花

創作

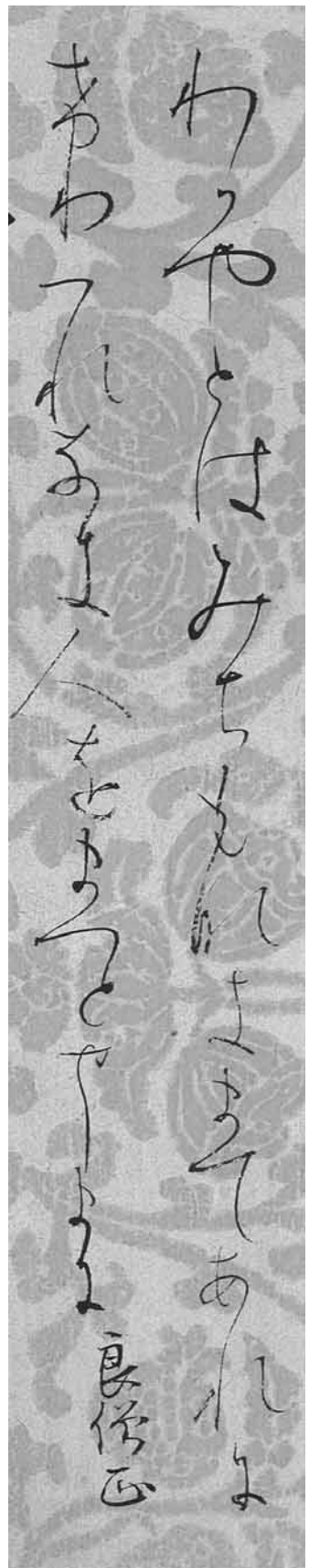
\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

〈編集部〉

※「審査会員の部」に出品する方は、43ページをご確認下さい。

かな規定 秀級以下 【7月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)  
 掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)

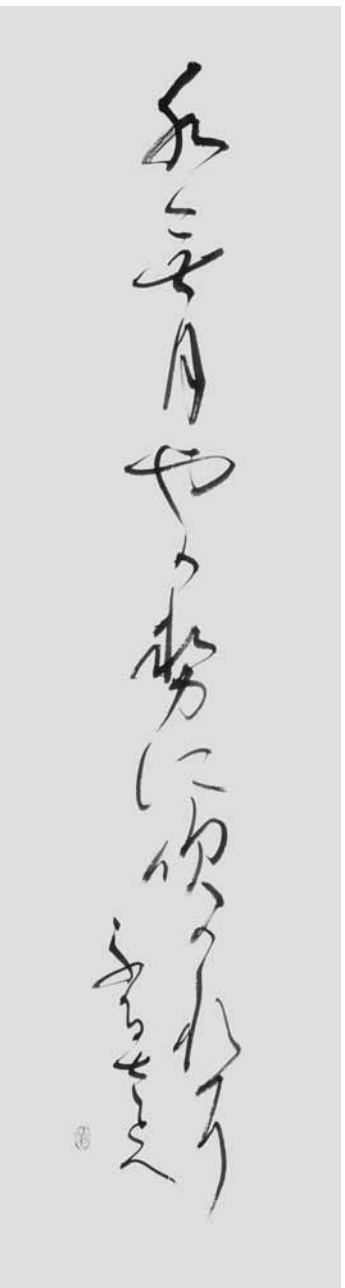
※2行目下の「良僧正」は書かなくてよい。



よみ方 わがやどはみちもなきまであれに<sup>可</sup>けりつれなき人をまつとせしまに<sup>不</sup>

歌意 私の家は道もわからなくなるほど荒れてしまいました。冷淡なあの方を待ち続けている間に。(今まで通りに通って下さるなら、通り道が雑草でふさがれるはずはありませんのに。)

かな条幅規定 【7月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切(料紙可) 須田清子選書



よみ方 水無月や風(可勢)に吹か(可)れに(耳)古郷(ふるさと)へ

※タテ形式に限る

創作

習い方解説 (3)

須田清子

水無月や風(可勢)に吹か(可)れに(耳)古郷(ふるさと)へ (上高鬼貫)

故郷への郷愁の気持ちを詠った句かと思えます。俳句は一筆で書くか、墨量の調節をして結句で墨継ぎをするとういでしょう。全体としては、書き出しの文字を少し小さくし、中ほどの文字の字形を膨らませるとより作品が引き締まると思えます。なお、墨継ぎは「ふ」にしました。

漢字条幅規定 初段以上 【7月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書



花開萬人集 花盡一人無 但見雙黃鳥 綠陰深處呼  
(花開けば万人集まり花尽くれば一人無し 但見る双黄鳥 緑陰深き処に呼ぶと)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【7月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄選書



竹梢露滴驚殘夢 荷蓋風翻送早涼  
(竹梢露を滴して残夢を驚かす 荷蓋風に翻って早涼を送る)

書体||自由

### 習い方解説 (3)

半田藤扇

今回は、むじなの筆を使用し、太・細のメリハリをつけてみました。渴筆が、この筆の特徴を生かし奥行きのある線となり、また、細線は紙にくい込むような強い線が表現されます。

「花」「人」と同じ文字が2回出てきますので、文字の造形を変えてみると全体のバランスが魅力的に仕上がるのではないのでしょうか？

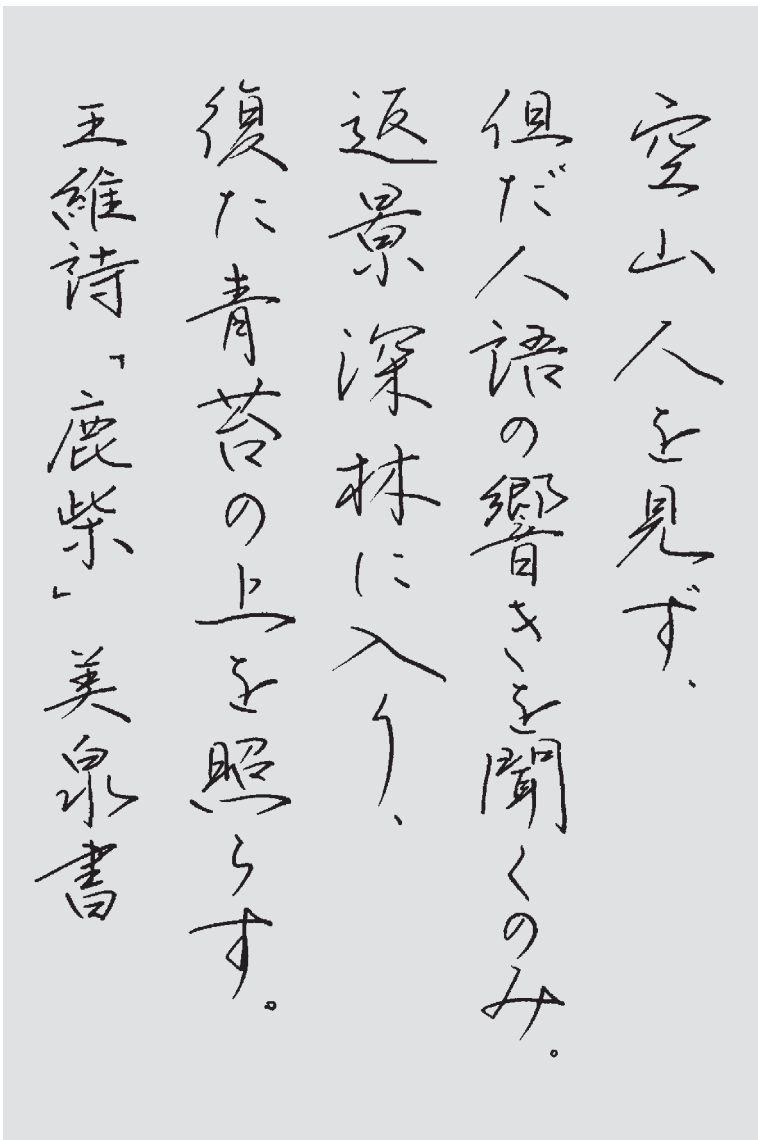
※タテ形式に限る

### 習い方解説 (3)

千葉蒼玄

2行の作品において、1行目と2行目の空間の取り方が重要です。楷書などでは左右を揃えて書くことが一般的ですが、行草体では1行目で形成された空間が、2行目の文字の大きさや間隔を決定します。

例えば、2行目の「荷」は1行目の「竹梢」の間に割り込むような構成で、また、「風」の払いが、「露」の間に入ります(「送」も同様)。



川村美泉

### 習い方解説 (3)

今月の課題は王維の詩です。長安の東南藍田県の輞川荘という王維の別荘での作。山はひっそりとして人影がないけれど、どこからか人の声だけが聞こえてくる。夕日の光が奥深い林の中で差し込んできて青い苔の上を照らし出している。絵画も堪能だった王維の詩風は「詩中に画あり、画中に詩あり。」と評されたそうです。多忙な日々の中にあっても、五感を働かせ、浩然の気を養いたいものだとこの詩を読みながら思います。

今回は連綿を使用しないで書きましたが文字間のつながりが途切れないよう、リズムをとりながらおらかな気持ちでペンをとりましょう。

空山人を見ず、  
但だ人語の響きを聞くのみ。  
返景深林に入り、  
復た青苔の上を照らす。

王維詩「鹿柴」○○書

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体＝自由

### 【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。



# 月の異名・旧暦 秋

7月 文月(ふみづき)

孟秋・新秋・饑暑

七夕月・蘭月

8月 葉月(はづき)

仲秋・南呂・雁来

月見月・秋風月

9月 長月(ながつき)

季秋・霜秋・授衣

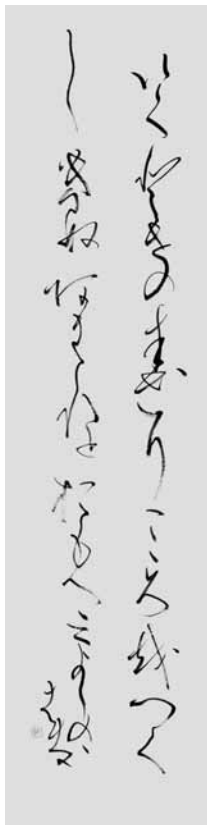
紅葉月・菊月

佐藤菜扇

月の異名・旧暦・秋／7月 文月(ふみづき)／孟秋・新秋・饑暑／七夕月・蘭月／8月 葉月(はづき)／仲秋・南呂・雁来／  
月見月・秋風月／9月 長月(ながつき)／季秋・霜秋・授衣／紅葉月・菊月／氏名

書体||自由

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)
- ◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇所定の出品券を作品の右下に貼る



かな条幅部 五段 佐藤 綾奈  
穂先が良くき紙面への食い込みも見事。リズム感も良くこれらが楽しみです。

◎かな条幅部総評 文字の太細や大小、紙面に対しての構成の工夫が足りない作品が散見されました。(絹子評)



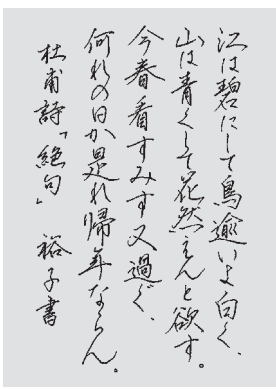
漢字条幅部 師範 鈴木 英晴  
作品全体が文字の大小、長短に富み、高雅な雰囲気佳。明清時代の作品を彷彿とさせる。

◎漢字条幅部総評 出品作品の大半が行草作品でした。中には篆隸作品もありましたが、もう一息の感でした。(大峰評)

漢字部 師範 穴戸 谷秀  
潤濁、細太、曲直、遅速等の変化自在な筆法が生み出す線は、表情豊かで生き生きとして魅力的。  
◎漢字部総評 審査会員の部・上級ともに筆法が巧みな上質の線を用いた行草作品が目についたが、行草体に不正確な作も見られた。(萬城評)



前衛書部 特選 高橋 奎媛  
紙面を自在に動く迫力ある線が見事である。墨塊と渴筆が踊るようにマッチングしている。  
◎前衛書部総評 創意溢れる作が見られた一方、造形に乏しい心に響かない作もあった。(蓮紅評)

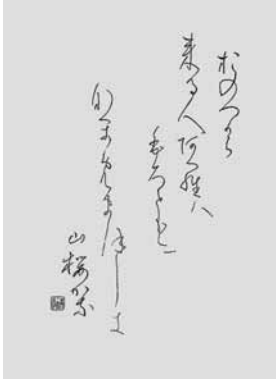


江は碧にして鳥逾いよ白く、  
山は青くそ花然んと欲す。  
今春看すみす又過ぐ、  
何れの日か是れ帰舟ならん。  
杜甫詩「絶句」 裕子書

ペン字部 師範 徳永 裕子  
ペン先を活かした美しい行書体。流麗さと温雅なリズムによって、詩の情景を見事に表現した格調高い作品。  
◎ペン字部総評 誤字もほとんどなく、手本を忠実に学ばれた作品が多かった。連綿線は短めに引くことが望ましいです。(孝子評)



現代詩文書部 特選 坂本 芳博  
深く厚みのある線に変化に富み、文字が浮き上がってくるかの如く見る者に迫ってくる。  
◎現代詩文書部総評 斬新な構成の作品は見ていて楽しいが、造形の確かさを望みたい。(邑峰評)



おのづから  
まろくゆるげん  
まろくゆるげん  
まろくゆるげん  
山崎 芳博

かな部 師範 東平 絹子  
字形はもろろん、連綿法などをよく理解して自分のものとし、滑らかで美しいリズムを醸しています。  
◎かな部総評 理解に苦しむ毛が散見した。高段者は料紙が多くなりよい傾向と思うが、墨量や太細の加減に気をつけたい。(洋子評)

選評 岩 垣 若 翠

お花見会のお誘い  
 日時 四月八日(月)九時開始  
 場所 地藏尊前の広場にて  
 遅咲きの枝垂桜が開花しました。  
 甘酒を用意しますので、是非  
 ご参加ください。  
 担当 多胡三千代

お花見会のお誘い  
 日時 四月八日(月)九時開始  
 場所 地藏尊前の広場にて  
 遅咲きの枝垂桜が開花しました。  
 甘酒を用意しますので、是非  
 ご参加ください。  
 担当 水津恵風

特選 多胡 三千代  
 字形整い、文字の大小や行間・天地の余白に丁寧な配慮がされた秀作。

特選 水津 恵風  
 丁寧な筆致で文字引き締まり、布置も美しく安定した作。

◎実用書部総評

案内文はまず読み易さが大切。表題は太めに大きく、できれば楷書で。上下・左右、行間などの余白を考慮して取り組みたい。(若翠評)

|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       |       |
|----|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|-------|-------|
| 紅瑠 | 深大 | 梓江 | 玉川 | 清月 | 洞書 | 佳     | AI | 千葉 | 澄春 | 大雲 | ここ | 土雲 | 千葉 | 紅瑠 | 秀     | 秀苑 | 春汀 | 常盤 | 深大 | 特選    |       |
| 須田 | 清水 | 佐藤 | 佐藤 | 小林 | 安藤 | 作(命書) | 堀江 | 新行 | 竹浪 | 鷺山 | 北爪 | 奥村 | 安藤 | 相澤 | 秀     | 本郷 | 落合 | 中山 | 水津 | 多胡三千代 |       |
| 香舟 | 良子 | 祥扇 | 綾奈 | 嘉奈 | 楊風 |       | 幸泉 | 叙舟 | 叙舟 | 美梢 | 鼓祥 | 綾乃 | 叙孝 | 敦子 | 東     | 谷恵 | 敏苑 | 知子 | 恵風 | 惠風    |       |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    | 入     | 華仙 | 八街 | 四枝 | 生大 | 有秋    |       |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    | 選(命書) | 柳瀬 | 島山 | 新村 | 丹村 | 田玉    | 高岡    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       | 瑠華 | 芝香 | 翠芳 | 美枝 | 春華    | 高橋千代子 |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 秀汀    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 一貫    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 倉吉    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 吉川    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 木村    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 熊井    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 栗原    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 宏子    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | りか    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 萌佳    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 光輝    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 佐々木   |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 恵子    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 蘭舟    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 葉子    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 祥風    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 美帆    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 高橋    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 高橋    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 白香    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 星子    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 柳明    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 尚子    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 綾香    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 陽生    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 峰生    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 藤谷    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 藤子    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 泰瑛    |
|    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |       | 妙華    |

(選外391名氏名略)



郁子 軽妙な動きをまとめた作  
 充律 瞬発力のある線が魅力的  
 友香里 切れ味の良い線と躍動美  
 邑里 渴筆の共鳴感と生命力有  
 美雪 曲直細線と渴筆で立体感

裕子 強い縦線と面線のコロポ  
 青湖 両極線の融合と余白美  
 良子 細線と面線の潤渴美  
 雅悠 宿墨美と静動線の遠近感  
 弥生 線の流れが大胆で動き有

選評 太田 蓮 紅

紅雨 素材の意を納得させる作  
 帆乃佳 大胆な運筆で書き切る  
 京仙 句の情景を感じる表現  
 藤象 静かに淡々と読める作品  
 陽子 淡墨美と構成の妙に好感

雅芳 大字に自身の思い乗せる  
 悦子 見所の表現力に感心  
 泰香 奇抜な丸い動きで纏める  
 美悠 豊潤な味のある線魅力的  
 翠 強弱に富む立体的線表現

花香 墨色・線質・余白美しい  
 梨秀 極限の筆の開閉が成功  
 青湖 速筆なれど線に味がある  
 雄一 難読なれど情熱を感じる  
 青花 文字に表情があり楽しい

美梢 行書の自然な変化美あり  
 藍水 細太の線のバランス良し  
 緑風 運筆の大きさ余白に響く  
 藤谷 線のねばりを感じる作  
 悦子 奇抜な文字群の構成美事

選評 大平 邑 峰

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 後藤大峰 山口仙草 白石和楓

臨書 (上泉) 早部 朗 「高野切第一種」



早部 朗 臨

35×135cm

◆高野切第一種  
の気品は数ある古筆の中でも群を抜きますが、緩急のリズムをよくつかみ、奥深い線質で墨量の変化も巧みです。古筆に静かに寄り添った作品(洋子評)

部分拡大



小品の部

漢字 (水莖) 中野柳明 「七言二句」

現代詩文書 (青蓮) 伊藤有津 「かの子句」



前衛書 (月華社) 成田結斗 「虫」

成田結斗書

130×35cm

◆重厚な迫力あるふたつの魂が呼応し合い、潤濁の配分もよく、新鮮な生き生きとしたパワーを感じる作品となっている。(仙草評)



中野柳明書

135×35cm

◆文字の大小・長短をしっかりと書き、適度な変化を加えて作品全体を創り上げている。さらに筆の開閉を確実にすることにより、書線の太細も佳く表現されている。(大峰評)



伊藤有津書

69×35cm

◆運腕大きく、細線がしっかり紙面にこみこみ、爽やかで明るく美しい。中心2行の流れも良く、最後の「花」で全体を引き締め、まともに見事。(和楓評)

総出品点数 81点

〈小品の部〉

創作の部(40点)

漢字 10点

かな 3点

現代 13点

篆刻 0点

前衛 14点

臨書の部(41点)

漢字 39点

かな 2点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

水莖 高岡 秀汀

AI 清水由紀子

〔かな〕

潮音 齋藤 杏邑

奥田 森川 紫木

〔現代詩〕

京橋田中一葉

四枝 伊藤 四夏

大雲 阿部 恵泉

〔前衛〕

蓮紅 大友 紅蓉

華芳 庄司 紫千

〔臨書の部〕

〔漢字〕

もく 青木 藤漣

素雪 坂本 芳博

堂光 佐藤 光耀

八街 十河 春景

八街 相楽 天翔

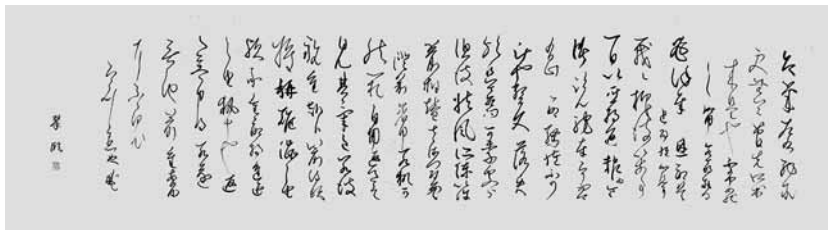
八街 三浦 小樹

八街 三浦 英樹

堺 利守 由佳理

春城 東京 春城

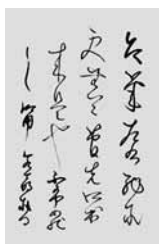
紅瑤 原島 春汀



金井みどり 臨

45×170cm

◆形意とも佳く原帖を観察し、緻密な部分をよく書き上げています。さらに全体の際調気も佳く捉えており完成度が高い。  
(大峰評)



部分拡大

現代詩文書

(翠苑)

佐々木豊苑 「北極光」



佐々木豊苑書

180×60cm

◆力強い筆致が目につく。上部3行の流れ、漢字かなのバランス見事。下部の線質も良く、雪と氷の世界を醸し出している。  
(和楓評)



前衛書

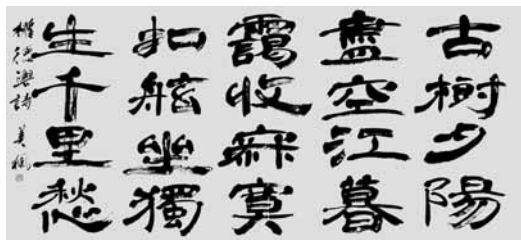
(篤信)

三浦朱鳳 「残像」

180×60cm

◆強烈な墨痕は紙面を圧倒し生命感あふれる魅力的な作品となった。粘りのある濃墨によるシャープな線が冴えた安定作。  
(仙草評)

三浦朱鳳書



奥村美楓書

67×144cm

漢字

(大雲)

奥村美楓 「五言絶句」

|           |           |
|-----------|-----------|
| 〈特選候補者〉   | 創作の部(42点) |
| 漢字        | 4点        |
| かな        | 6点        |
| 現代        | 12点       |
| 前衛        | 20点       |
| 臨書の部(10点) |           |
| 漢字        | 9点        |
| かな        | 1点        |
| 総出品点数     | 52点       |

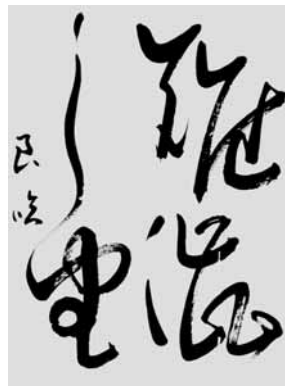
〈大作の部〉

|    |    |    |      |    |    |    |      |    |      |
|----|----|----|------|----|----|----|------|----|------|
| 清月 | 境野 | 和子 | 大雲   | 宮原 | 香扇 | 遊山 | 紺野   | 遊山 | 「かな」 |
| 松風 | 西條 | 松雲 | 白珠   | 村井 | 利喜 | 紅瑤 | 廣田   | 弘子 | 紫    |
| 千桜 | 金子 | 美千 | 玉川   | 御園 | 生芳 | 光風 | 千葉   | 光泉 |      |
| 玉州 | 角張 | 芳蘭 | 「前衛」 | 秀惠 | 阿部 | 雅悠 | 「漢字」 | かな |      |
| 伊呂 | 鈴木 | 英晴 | 宗苑   | 白井 | 真理 | もく | 森田   | 藤谷 |      |
| 八戸 | 市川 | 蒼風 | 蒼花   | 坂本 | 蓉花 | 玄宮 | 尾形   | 紅霞 |      |

漢字研究部  
(佐理書状・恩命帖)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



福田 良子

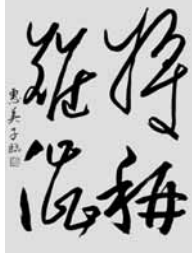
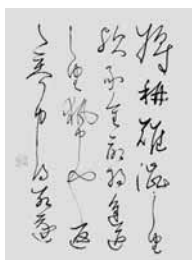
漢字研究部 特選 福田 良子

原帖をよく理解し、正確な表現がなされており、平素の努力を伺い知ることが出来ます。また、肥瘦、疎密がバランス良く融合し、線質も明るい流れるようなリズムを感じさせる秀作です。

◎漢字研究部総評

多数寄せられたほとんどの作品が、伸びやかで明快な作でした。そのような中で気になっ

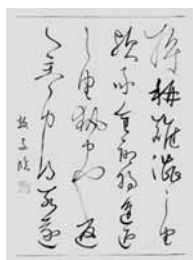
たのは、「流」の字の字形が原帖と大きく異なる作品でした。その他、特に注意しなければならぬと感じたことは、4文字の作で「流」の字で終わるところを、「之」の字の1画目の点まで書いた作が数点あったことです。書作する前に不明な点は調べてから書く習慣を身につけてほしいと思います。



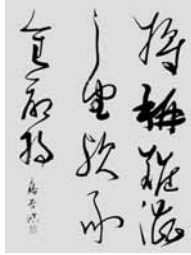
萩 惠 夏 白 光 理  
美 子 峰 琴 葉 扇  
雨 子



光 惠 沙 江 紅 富  
陽 水 莉 彩 華 士  
陽 子



翠 俊 雅 俊 菁 敦  
玉 雄 悠 吾 湖 子

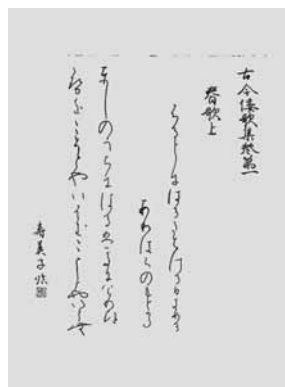


啓 藤 美 小 紅 華  
子 谷 子 樹 雨 惠

かな研究部  
(高野切第一種)

選評 酒 寄 光 子

今月のホープ作品



田 焜 寿美子

- 永美里 箕梢美
- 紀和桃 舟美代
- 萩英佳 雨晴恵
- 香佳代 朗 舟子

かな研究部 特選 田 焜 寿美子  
高野切第一種の特徴である、流麗優美でありながら力強い線質が見事に表現されました。日頃の習練が窺える作品です。  
◎かな研究部総評  
全体的に良く書けていました。一部誤字がありましたが、古筆は欠損部分があるので、古筆と積文を良く見て書き始めましょう。

かな研究部成績表

|  |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|
| 和わ一う清菊も<br>平か心る月月く<br>井伊飯飯新青<br>藤森高島井木<br>英幸博幹ミ恵藤<br>二幸子生子子              | 秀<br>作(60書)   | 中玉黎大沙芳書紅か<br>川明川雲蘭泉瑤か<br>三佐松名齋永藍<br>田藤田取取并澤崎<br>舟綾綫美おすみ江<br>舟奈香紗油彩彩       | こ大上た大憲竹書森伊桜紅か上紅<br>だ雲か雲が書書美地澤呂草蒸か泉<br>ゆ玉松ま有墨清竜映素清う春正<br>玉秋緑月泉紅雪〃清う汀華こ樹<br>松ま秋緑月泉紅雪〃清う汀華こ樹 | ◎田焜寿美子<br>早部 佳代 朗<br>須津 佳代 朗<br>須津 佳代 朗<br>須津 佳代 朗<br>須津 佳代 朗             |
| 明こ華一八蓮上生長麗上清竹玉<br>漢だ仙弦街紅泉大月澤泉扇松<br>吉山柳村村本藤原長萩徳寺田武高<br>田根瀬上上田多本澤谷原前中玉山田   | 明こ華一八蓮上生長麗上清竹玉<br>漢だ仙弦街紅泉大月澤泉扇松<br>吉山柳村村本藤原長萩徳寺田武高                        | 明こ華一八蓮上生長麗上清竹玉<br>漢だ仙弦街紅泉大月澤泉扇松<br>吉山柳村村本藤原長萩徳寺田武高                        | 明こ華一八蓮上生長麗上清竹玉<br>漢だ仙弦街紅泉大月澤泉扇松<br>吉山柳村村本藤原長萩徳寺田武高  | 明こ華一八蓮上生長麗上清竹玉<br>漢だ仙弦街紅泉大月澤泉扇松<br>吉山柳村村本藤原長萩徳寺田武高                        |
| 渡吉山山山谷安矢本松松廣長乘根沼二西渡寺千滝高鈴代清島島柴齋齋小松小菊<br>邊野山口縣知嶋有尾郷津深瀨山谷船岸田通川川原澤木木水田外小松松小菊 | 渡吉山山山山谷安矢本松松廣長乘根沼二西渡寺千滝高鈴代清島島柴齋齋小松小菊<br>邊野山口縣知嶋有尾郷津深瀨山谷船岸田通川川原澤木木水田外小松松小菊 | 渡吉山山山山谷安矢本松松廣長乘根沼二西渡寺千滝高鈴代清島島柴齋齋小松小菊<br>邊野山口縣知嶋有尾郷津深瀨山谷船岸田通川川原澤木木水田外小松松小菊 | 渡吉山山山山谷安矢本松松廣長乘根沼二西渡寺千滝高鈴代清島島柴齋齋小松小菊<br>邊野山口縣知嶋有尾郷津深瀨山谷船岸田通川川原澤木木水田外小松松小菊                 | 渡吉山山山山谷安矢本松松廣長乘根沼二西渡寺千滝高鈴代清島島柴齋齋小松小菊<br>邊野山口縣知嶋有尾郷津深瀨山谷船岸田通川川原澤木木水田外小松松小菊 |

かな研究部 特選 田 焜 寿美子

秀 作(60書)

入 選(60書)

大 秀 た 八 生 七 松 七 徳 狼 彦 佐



# 「書道芸術」特別昇段級試験 師範合格者模範作品

## かな部 第三種

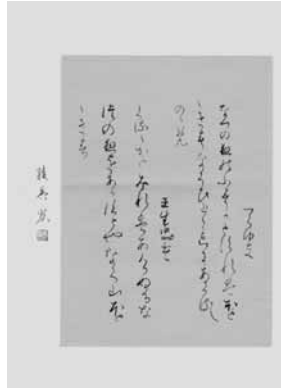
創作



臨書  
(寸松庵色紙)

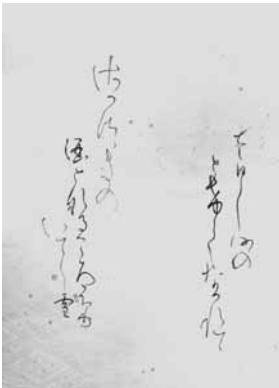


臨書  
(関戸本古今和歌集)

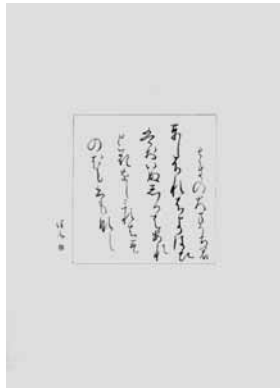


前橋 猪野 綾香  
・2点とも錬度の高い臨書作品です。創作も鋭いタッチで、洗練された線とリズムに現代的魅力があります。  
(下谷洋子)

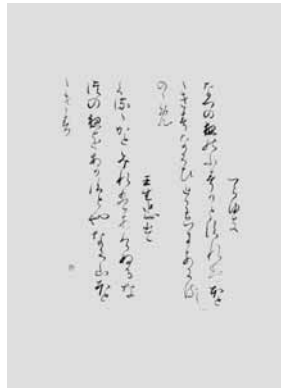
創作



臨書  
(寸松庵色紙)



臨書  
(関戸本古今和歌集)



華祥 小泉 潤  
・それぞれの古筆の特徴を良く捉えて強弱のリズムもすばらしい。潤濁が巧みで創作作品も立体的です。  
(平川峰子)

## 総 評

審査長

下谷 洋子

「書道芸術」特別昇段級春季試験が滞りなく実施されました。春季の三種の実施科目は「漢字条幅」「かな」の2部門で、他は二種までです。全体には昨年より若干受験者数が減少し、特にかなの三種にその傾向が見られました。

三種は、漢字もかなも受験科目が多く、特に臨書は2種類のため両方をバランスよく書ききるのはなかなか難しいことと思います。高段になると留め置きもあるため、今回も厳しい結果に落胆された方も多いでしょうが、段や師範にはそれ相応の実力が必要です。創作も含め、各種臨書の基礎力のみならず表現力も求められます。毎年同じ古典を扱いますので普段の学習も計画的にできますから、毎月の競書とともに日々丁寧に取り組んでいきましょう。

模範作品を参考にしてください。

漢字条幅部 第三種

千葉 大野 純奈

・三体とも練度の高い作品。筆が躍動し、線の表情が良く、生命感に溢れた作。古典の特徴も捉えた。

(種、谷萬城)

楷書 創作

満地蘆花和我老舊  
家燕子傍誰飛

純奈書

行書 臨書(争座位文稿)

恨不頂而戴之是用有興道  
之會僕射又不悟前失

純奈書

草書 臨書(書譜)

於免生或為無新况  
交世若於物未

純奈書

各部短評

漢字

〈一種〉原帖をしっかり観察し、ハライ、トメなどの特徴をつかみ、その形線に近づくこと。丁寧に観察すれば、気づかなかった発見があり、より深く、

泰瀧 猪原美風

・楷行草とも上質の作品。全体のバランスも良く、品性が高い。落款印も工夫し、お洒落に仕上がった。

(種、谷萬城)

楷書 創作

満地蘆花和我老舊  
家燕子傍誰飛

美風書

行書 臨書(争座位文稿)

衆情以喜恨不頂而戴之  
是用有興道之會僕射又不悟

美風書

草書 臨書(書譜)

予好管絃釋律日引  
孫式身未(急)

美風書

学習することができます。

(菊池富美子)

〈二種〉臨書は原帖をよく観て、筆遣いや字形を学習して下さい。行書創作

は線の連続に注意して表現して下さい。

また、落款にも気配りし、「臨」や「書」まで書いて下さい。(片岡豪峰)

# 書展

第57回

玉松会書展

山口仙草

会期Ⅱ令和6年4月9日(火)

Ⅲ14日(日)

会場Ⅱ鳩居堂画廊

4月9日(火)から14日(日)まで銀座の鳩居堂画廊3・4階を会場に玉松会書展が開催されました。

会場には永井幸子先生の遺作を始め石井明子先生、平川峰子先生、幹部の先生方の作品から会員の作品まで整然と陳列されておりました。

作品は線に力のある作が多く、筆の動きがシャープに表現され、安定感のある作が目立ちました。特に幹部作品は美しく充実した作が多く、作品と料紙との調和が見られ、深い味わいを感じ取ることができました。

銀座の中心での開催は来場者も多く、会員相互の熱意を感じられる展覧会となりました。

来年も同じ時期に同じ会場で開催する予定とのことです。玉松会の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。



会場風景 (鳩居堂画廊3階)

ISHIKAWA KYUYOH

## 石川九楊大全

厳選三百点、言葉と格闘する書家の軌跡

**6月8日(土) - 30日(日)**  
前期【古典篇】  
遠くまで行くだ

【会場】 当日券●400円 ●税込2,000円 前売券●1,800円  
数量限定 会場券は1冊まで1,800円、前売券は1冊1日1冊まで  
【古典篇】【状況篇】それぞれに人数券が必要です。  
【予約】 03-3464-4201 (受付時間: 9:30-17:00) ●予約受付期間: 5月27日(日)まで  
※前売券は数量がなくなり次第終了となります。  
※中学生以下は入場無料。親子・母子観覧券は別途1名追加。詳細情報は、03-3464-4201へお問い合わせください。 ●当日券は前売券の7月1日、2日は前売券購入の人数制限があります。

THE COMPLETE WORKS

## 石川九楊大全

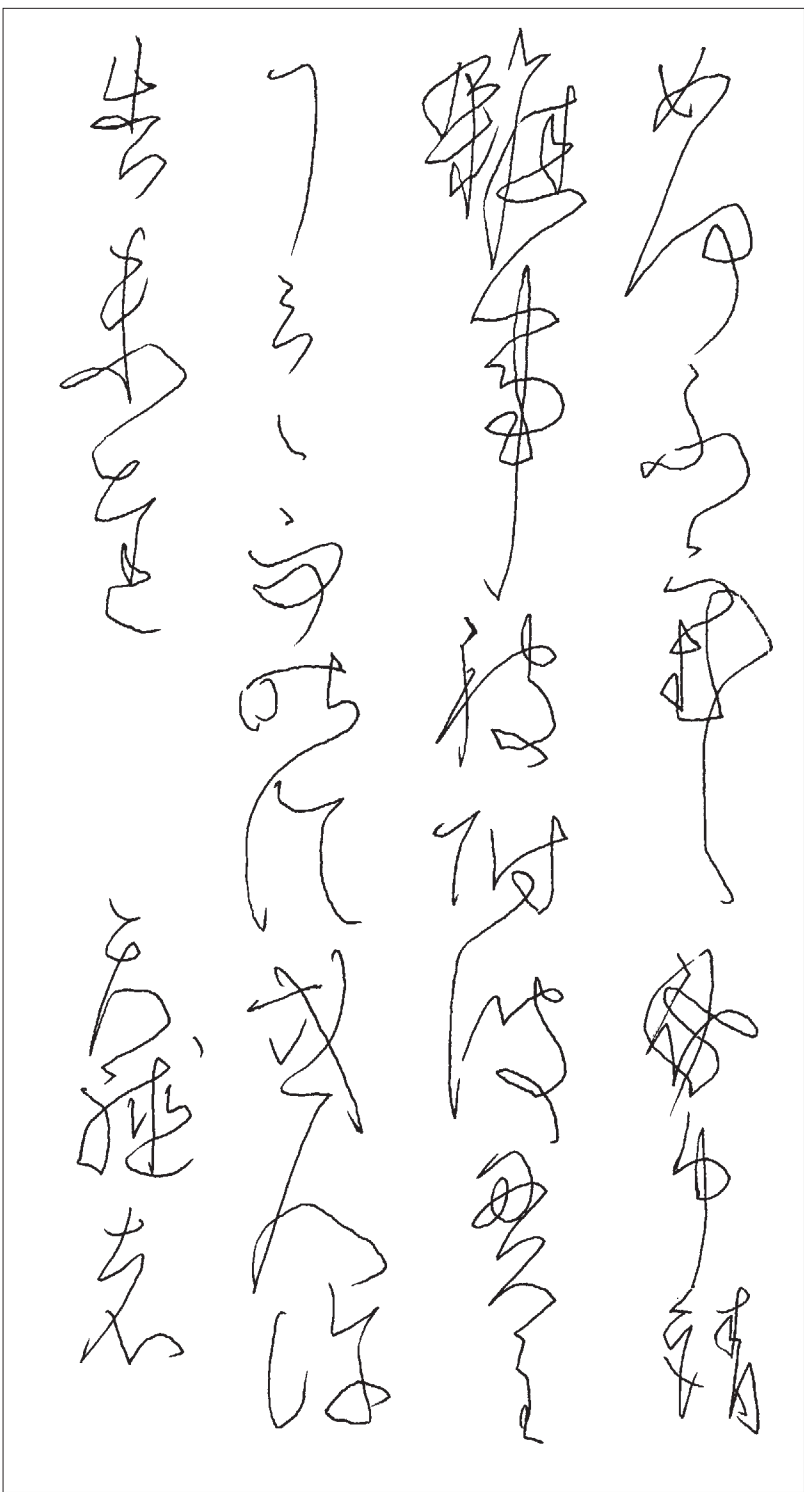
前期・後期、全作品総掛け替えの大個展

**7月3日(水) - 28日(日)**  
後期【状況篇】  
言葉は雨のように降りそそいだ

【会場】 石川九楊大全文行委員会/日本経済新聞社/上野の森美術館  
【前】 株式会社森美術館/ウエスト・グループ株式会社/人間学協会  
【状況篇】 株式会社森美術館/ウエスト・グループ株式会社/人間学協会  
【状況篇】 株式会社森美術館/ウエスト・グループ株式会社/人間学協会  
【前】 株式会社森美術館/ウエスト・グループ株式会社/人間学協会  
【状況篇】 株式会社森美術館/ウエスト・グループ株式会社/人間学協会  
【前】 株式会社森美術館/ウエスト・グループ株式会社/人間学協会  
【状況篇】 株式会社森美術館/ウエスト・グループ株式会社/人間学協会

**上野の森美術館**  
THE UENO ROYAL MUSEUM

・草名と「申」を離しています

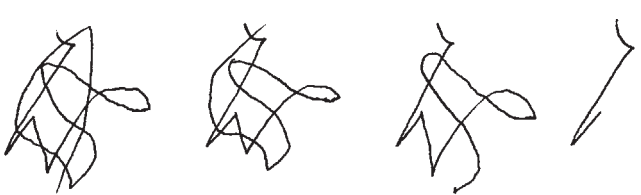


「請」筆順

「昨」筆順

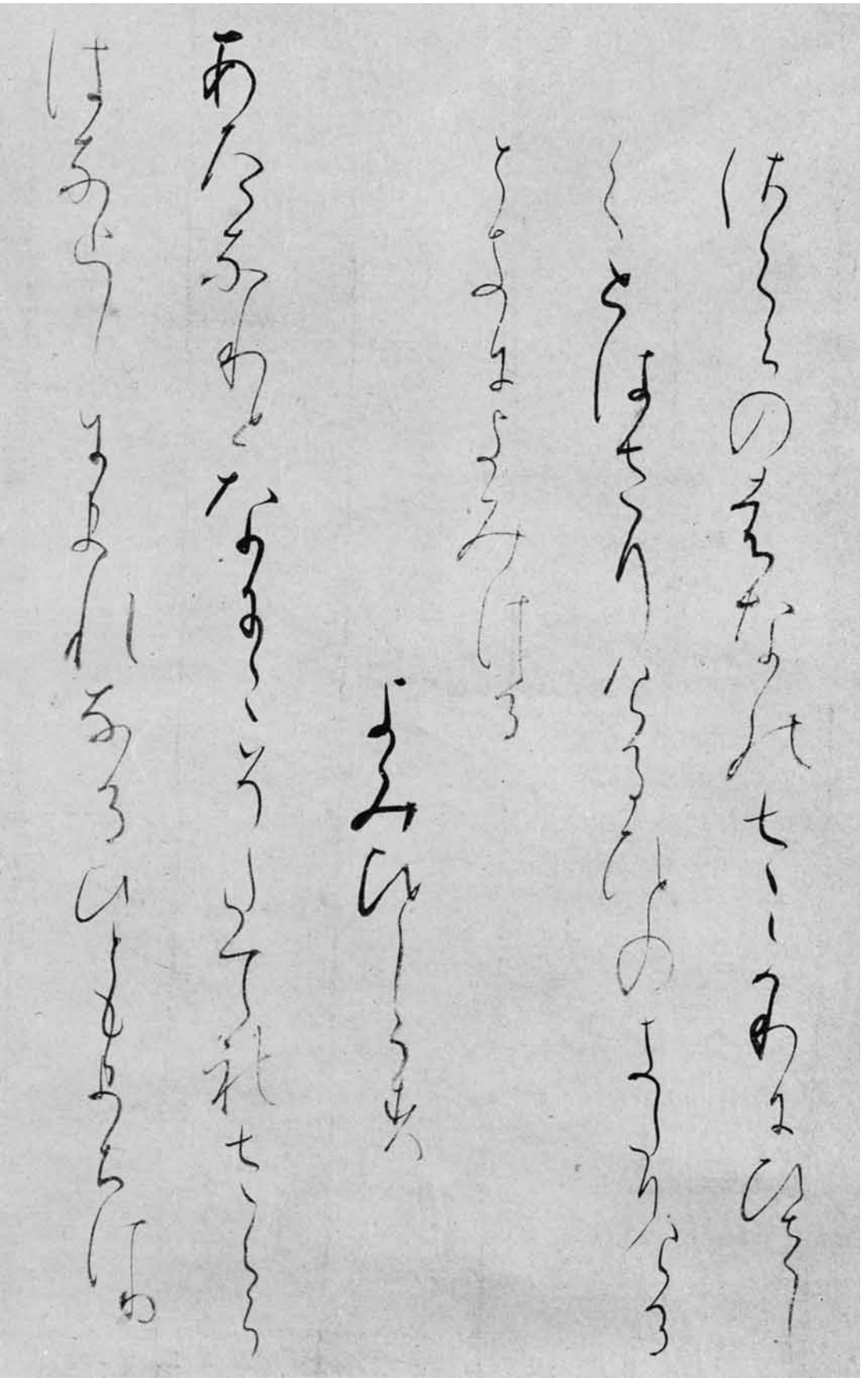
「或」筆順

請  
請  
請  
昨  
昨  
昨  
或  
或  
或



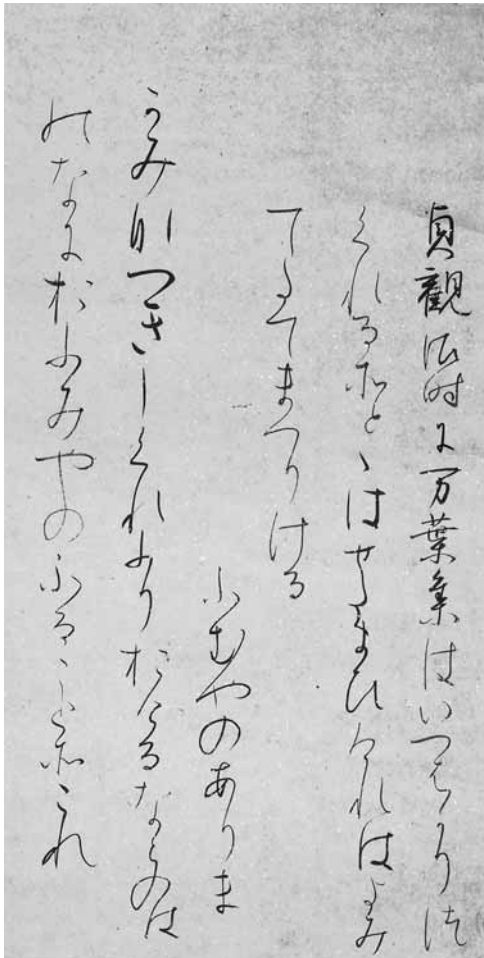
如何。不審々々。<sup>不審</sup>  
 ^佐理<sup>草名</sup>申請  
 雜事、被附彼貫  
 主了云々。而  
 昨從或人許告  
 未達天聽者。  
 草名筆順・案

☆P9の「高野切第一種（伝紀貫之筆）」の課題を原寸で示しました。ご活用下さい。



古筆鑑賞 ②44

高野切第三種 (伝 <sup>きのつらゆき</sup>紀貫之筆) ①



(掲載図版・50%に縮小)

古典鑑賞 ④70

雁塔聖教序 (褚遂良) ①



(掲載図版・60%に縮小)

〈よみ〉  
貞観御時に、万葉集はいつらうに  
つ／＼くれるぞと、はせたまひければ、  
よみ／＼たてまつりける／＼ふむやのあ  
り末／＼かみなづきしぐれふりおけるな  
らは／＼のなにおふみやのふるごとぞ  
これ

大唐 太宗文皇／帝製三藏聖教／序。  
蓋聞一儀有／象。顯覆載以合

●篆刻

【7月15日締めきり】

〈出品規定〉

- ①摹刻 (ア) 課題による語句 (イ) 原印自由 (出品の際、原印) のコピー添付
- ②創作 語句自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。  
 ○印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。  
 ○応募は①か②のどちらかとする。

6月号 篆刻課題

〈原印コピー〉



◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

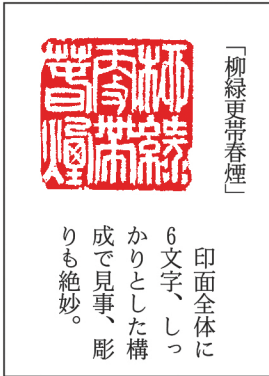
756号篆刻優秀作品

篆刻特選 鷺山美梢



原印観察は  
 出書中随一である。捺しも丁寧である。好慕。

創作特選 中島義則



印面全体に6文字、しっかりとした構成で見事、彫りも絶妙。

◎篆刻部総評

今月は新たな出品者が増え「今月の注目作」も、その中から選びました。今後出品を継続されることを期待します。(大峰評)

選評 後藤大峰

(篆刻) 特選 鷺山美梢 秀作(50音應) 大雲 生大 中島 義則

(創作) 特選 生大 中島 義則 秀作(50音應) 大雲 鷺山 美梢

芳琴 小野寺幸喜 八街 相楽 天翔  
 大網 片岡 豪峰 粹仙 藤井 龍仙  
 蒼原 庄司 櫻空 趙雲 吉田 恵彦

大雲 小沢 華仙 遊雲 赤星 文庵  
 石心 成田 能喜 八街 井口 泉峰  
 白琉 平塚 由香 慈空 坂本 覺山  
 石心 山道 葵泉 八街 三浦 由季

丸山 加藤 妙子 唯一 逢沢 唯一  
 八街 新村 翠芳 游水 荒川 裕泉  
 生大 吉原 進 (選外なし) 八街 大日向 幽香

今月の注目作

相楽天翔



昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
 令和六年五月二十五日 印刷  
 令和六年六月一日 発行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第七五八号

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区  
 東神田1-16-7  
 東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954  
 FAX(03)3862-1957

ご連絡等は  
 月曜日～金曜日 10時～16時の間に  
 お願いいたします。(土日祝日は休み)

送料

- 1か月の購読部数がある
- 1部～9部までの1回の郵送料
- 1部 79円
- 2部 95円
- 3部 103円
- 4部 119円
- 5部 135円
- 6部 151円
- 7部 167円
- 8部 183円
- 9部 199円
- 10部以上は 送料免除

令和六年五月二十五日印刷  
 令和六年六月一日発行  
 定価 1部 七五〇円

編集兼 発行人 下谷洋子

データ処理 株式会社 リンクス  
 印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7  
 東神田プラザビル3階  
 電話(03)3862-1195 4  
 FAX(03)3862-1195 7  
 振替 00150141135058  
 振替 00150141135058  
 ホームページ http://www.jins.co.jp/shogei/